

認知症になっても安心して暮らせる社会を

月刊 POLE-POLE (スワヒリ語)

ぽ〜れ ぽ〜れ

ゆっくり
やさしく
おだやかに

2017
JANUARY
No. 438

1

Alzheimer's Association Japan

認知症のひとと家族の会 理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。認知症のひとと家族の会は、ともに励ましあい助けあって、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

家族の会
きょう・明日

国際会議・新春特別企画「私、発表します！」
発表する12人の会員のメッセージ (4-5面)

進取の気性を失わず
まい進します

高見国生代表理事

2017年「年頭の辞」(3面)



沖縄県支部
11月支部会報から

世界アルツハイマーデーPRのお手伝い
観光大使の「はえるん」とハートひげの「なんじい」
みなみの会in南風原(はえばる)ジャスコ前で



栃木県支部
11月支部会報から

介護の日フェスティバル(関連記事は15面)
「とちまるくん」も一役かって
100歳の方が折った「折り紙のこま」を配る

国際アルツハイマー病協会 (ADI)
第32回国際会議2017 in 京都

2017年

4月26日(水)~29日(土)

〈26日〉登録受付・歓迎会
〈27日~29日〉開会式、講演発表

国際会議まで
あと 91日!

AZ
Kyoto 2017

電|話|相|談 0120-294-456 (月~金・10時から3時) 協力/住友生命保険



発行
公益社団法人 認知症のひとと家族の会
Alzheimer's Association Japan

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内
TEL.075-811-8195 FAX.075-811-8188
ホームページ / www.alzheimer.or.jp
Eメール / office@alzheimer.or.jp



kazokunokai

進取の気性を失わず まい進みます

— 5団体が連携を始めた記念すべき時代 —

代表理事 高見 国生



新年おめでとうございます。

会員のみなさんにとって今年が良い年になりますようにと、お祈りいたします。

日ごろお世話になっているみなさまには、どうか今年もよろしくお願いいたします。

ADI（国際アルツハイマー病協会）の国際会議は、すぐそこまで迫ってきました。昨年末にはADIの関係者が来日し、発表応募者の選考や会場（国立京都国際会館）の視察も行われ、立ち会った私も「いよいよだ」と緊張感を覚えました。

発表応募件数は、これまでの国際会議の中でも最高の約600件に達しました。日本からも200件の応募があり、「家族の会」会員からも多数の応募がありました。本誌では12名の会員に登場してもらい、発表内容や決意を語ってもらっています（4～5面）。

過去最高の発表応募件数にも、世界中で認知症への関心と取り組みが進んでいることが表れており、今月の中旬に口頭発表者とポスター発表者の氏名と内容が公表されたら、さてどの分科会で誰の発表を聴こうか、どのポスターを見ようかと考える楽しみを膨らませてくれることでしょう。私も初日の全体会で、わが国の認知症の取り組みの歴史を話すことになっていますので、お聞きいただければ嬉しいです。

国際会議の会場視察などが行われた2日後の12月9日、制度見直しの議論を行ってきた社会保障審議会の介護保険部会が開かれ、「家族の会」選出の花俣ふみ代委員（理事）は「負担増・給付抑制反対」の立場を貫きましたが、「高所得3割負担など」（京都新聞）とする意見のまとめが行われました。しかし、当初提案された福祉用具の全額自己負担化や要介護1、2の生活援助外しなど

がことごとく見送られたことは、「家族の会」の要望書や支部代表者会議アピールとそれに基づく花俣委員の「ブレない発言」（ある新聞記者の評）や他団体からの声などの成果であったと言えます。

介護保険部会で示された、「一定所得者の自己負担3割に」「月の自己負担限度額を4万4400円に」「総報酬割の導入」など、負担増の方向について、今後は、国会で法律改正の議論に移ります（14面参照）。「家族の会」としては、「さらなる給付抑制と負担増は介護保険崩壊の道」（支部代表アピール）という立場で、私たちの長年の願いで実現した介護保険制度が崩壊しないように今年も取り組んでいきます。

「家族の会」は、今年は結成38年目の活動に入ります。結成から20数年間は、認知症関係の当事者団体は「家族の会」しかありませんでしたが、今日では数多く誕生しています。そのうちの全国規模で活動している5団体が国際会議を目指して連携を始めました。「初めての試みです。…さまざまな取り組みをしているからこそ、お互いに補い合える土台がこれで整いました」と5団体アピールが誇り高く宣言したとおり、このことはわが国の歴史の上で特筆されるべき出来事だと思っています。

このような新しい時代の動きに合わせて、わが「家族の会」も、若い家族、若い介護者に向けての新しい取り組みを始めています。「家族の会」のスタートは、30歳代、40歳代の若い介護者や支援者の力でした。歴史を切り開いてきた伝統をあらためて振りかえり、進取の気性を失わず、今年もまい進したいと思っています。

ご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。



国際アルツハイマー病協会 第32回 国際会議2017 in 京都

カメルーンからも... ウクライナからも...!!

全世界から応募者あつまる!
総数582

「私、発表します！」

発表する12人の会員のメッセージ

当事者の声は
重視されているか
の調査報告



内出 幸美

（岩手県・支部副代表）

岩手県支部では、2016年秋、認知症施策に当事者の声が重視されているか否か等の聞き取り調査を県内33市町村に対して行いました。とても興味深い結果を得ましたので、国際会議で参加者の方々と共有することを楽しみにしています!!

認知症と
ともに生きる



丹野 智文

（宮城県・会員、認知症の本人）

認知症でも環境さえよければ笑顔で楽しく過ごせ、仕事もできることを多くの人に知ってもらいたいと思い、抄録を提出させていただきました。笑顔でみなさんに会えるのを楽しみにしております。

東日本
大震災と
福島県



芦野 正憲

（福島県・理事、支部世話人）

今回、全体会では「認知症と災害」が取り上げられます。東日本大震災から6年が経ち、震災が話題となることが少なくなりました。「東日本大震災と福島県」として当時や今の状況をポスター発表でお伝えできればと思います。

認知症の人
・家族の思いを
広く伝えたい



大野 教子

（東京都・支部代表）

本人、家族、専門職を対象にした「認知症の人と家族の思い」に関するアンケート調査結果を発表します。それぞれの思いを広く伝えることで、本人と家族が穏やかに暮らせる環境づくりの一助になればと期待しています。

「仲間に会いたい」
から始まった
本人交流会



堀井 隆子

（富山県・支部代表）

2004年の国際会議後、京都で全国本人交流会が開かれ、支部の松島研二さんも参加。「また仲間に会いたい」の声を受け、「笹川のつどい」が始まり、満10年、20回連続で開催できました。その成果を発信します。

家族支援を
進めよう!!



尾之内 直美

（愛知県・支部代表）

「【介護者憲章】の作成 一家族の会愛知県支部が目指す介護者法への提起」と題してポスター発表を行います。愛知県支部で作成した介護者憲章を知っていただき、家族支援の取り組みを広く発信できたらと思っています。

認知症 とともに新しい時代へ

とき ● 2017年 **4月26日～29日**

26日：登録受付開始、歓迎会
27日：開会式、講演発表開始

ところ ● **国立京都国際会館**

中村 重信

国際会議組織委員長

4月の国際会議に「家族の会」会員の方々から貴重な経験に基づいた多くの演題をお寄せいただき、ありがとうございました。発表いただく方々の中から、12人の方に発表の意気込みや抱負を語っていただきました。みんなで応援しましょう。プレー!!

抄録応募状況からみる2017年ADI国際会議

《応募者数比較》

2017年／京都	582
2015年／パース	409
2014年／ブエルトリコ	216
2013年／台北	240
2012年／ロンドン	455

《応募数上位5ヵ国》

日本	201
イギリス	81
台湾	67
オーストラリア	56
アメリカ	24

《発表内容上位5分野》

1位／介護者支援と研修
2位／認知症にやさしい地域づくり
3位／非薬物的介入
4位／本人と介護者の参加
5位／パーソンセンタードケア

応募者の国際的拡がり ● 下記の国々からも応募あり。
カメルーン、クロアチア、イラン、フィンランド、ネパールなど

短歌を支えに 認知症を 生きる



西口 和代

(三重県・支部世話人)

“短歌を詠むことを支えに認知症を生きる”を英文で発表します。『生きるとは己の為と判りつつ誰かの為にそっと成りたい／細やかな吾の作業を殊更に妻はそやして吾を励ます』田島保男氏の短歌です。

電話相談の データ化から 見たこと



奥野 茂代

(京都府・本部電話相談員、支部世話人)

「支部と本部における電話相談の実態」について発表します。支部と本部の記録をデータ化して比較、実態や方向性をまとめました。「家族の会」の電話相談活動を国内外に発信できる機会をいただき、喜びと責任を噛み締めています。

電話相談員 として 学んだこと



越野 稔

(京都府・本部電話相談員、支部世話人)

私は電話相談員を経験して多くのことを学びました。それは電話相談員の皆様であり、相談者からも教えられることがありました。これらの方々に感謝を込めて発表させていただきます。

あなたはもう 一人では ない



尾崎 善規

(岡山県・支部代表)

認知症の人と家族のための電話サポートシステム・岡山県支部のコールセンターが果たす役割を発表します。『一人でかかえこまないでください。まず私たちがお聴きします。あなたはもう一人ではありません』

古民家カフェ 「ふしの」の 魅力



川井 元春

(山口県・支部代表)

山口県支部にとっては初参加の国際会議に発表までさせてもらえることになり、4月がとても楽しみです！古民家を活用した支部運営のカフェ「ふしの」の魅力を、魅力的な世話人、会員と共に存分にアピールしたいと思います。

食べ物と 認知症



常見 裕之

(鹿児島県・支部代表)

世界中でミツバチの大量死を引き起こしたネオニコチノイド系農薬。日本でもたくさんの作物に多用され、大量に摂取すると人間でも記憶障害等を引き起こす神経毒です。認知症との関係について話します。

本人登場 私らしく 仲間とともに No.138

「笹川の家」の
前で記念撮影



第20回笹川のつどい (本人交流会)

富山県支部

「全国本人交流会」の開催から10年が経過し、昨年10月の開催で20回目を迎えました。今回は9組の本人・家族・世話人など総勢34名の参加でした。20回目ならではの場面もあった交流会の様子をお伝えします。

(編集委員 鈴木和代)

感謝状の贈呈

「あなた方は全国本人交流会（笹川のつどい）に継続参加されました。10年間、笑顔と希望を与えてくださいました。これからも交流会にずっと参加して下さるようお願いします」一笑いと拍手の中で20回継続参加の松島研二・恵子ご夫妻に感謝状と記念品が贈られました。毎日、元気な日々を送っている松島さんご夫妻の生き方は、「認知症になっても自分らしく過ごすことができる」という希望を与えてくれました。

20回を迎えて

2004年に京都で開催されたADI国際会議をきっかけに始まった「全国本人交流会」。全国から集



感謝状のお礼を述べる松島研二さん(中央)

まった7名の本人会議で、「仲間に会いたいなあ」という言葉が契機でした。「じゃあ、自分たちでやってみよう」と暗中模索の中で交流会を開催することになりました。誰かが誰かを支えるのではなく、お互いに同じ立場で学び合い、話し合い、励まし合いながらやってこられました。これまで全国から多くの仲間が参加されました。

本人と家族に分かれて話し合った内容

本人どうしの話し合い

1. 今、いちばん やってみたいこと
「仲間といっしょに海外旅行に行きたい」
「意欲をもって毎日をすごしたい」
2. 家族や周りの人に知ってほしいこと
「私は認知症です、と周りの人に公表する勇気を持ちましょう」
「国際会議はみんなで参加しましょう」

家族どうしの話し合い

社会に訴えたいこと
「介護者が余裕を持つため、介護・福祉制度を充実させよう」
「病状の進行を受け入れながら、介護者自身の生活を楽しまう」
「介護保険の後退を絶対許さない。さらに充実を求める！」



本人交流の場 (詳細は各支部まで)

宮城●2月2日・16日(木)10:30～15:00
／翼のつどい→泉区南光台市民センター
山形●2月18日(出)13:00～15:00／本人のつどい→すこやかセンター2階第3

会議室
●2月22日(水)13:30～15:30／若年のつどい→篠田総合病院2階講堂
埼玉●2月18日(出)11:00～14:30／若年のつどい・深谷→特養フラワーヴィラ
会議室
富山●2月4日(出)13:30～15:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ
岐阜●2月26日(日)11:00～14:00／若

年のつどい→岐阜市・アルト介護センター一長良
愛知●2月11日(土・祝)10:30～15:00／若年本人・家族「元氣かい」→東海市しあわせ村
広島●2月4日(出)11:00～15:30／陽溜まりの会東部→福山すこやかセンター

会員さんからの お便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

お便りお待ちしております！

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル
京都社会福祉会館内
〈「家族の会」編集委員会宛〉

FAX.075-811-8188

Eメール office@alzheim.or.jp

鉄道死亡事故に思うこと

●長野県 Aさん 70歳代 女性

鉄道死亡事故の裁判を聞いた高井さんの記事を読んで、心が痛みました。私も他人事ではありません。私は74歳になる主人と二人暮らしです。主人は8年ぐらい前から、電話で仕事を頼まれても忘れてしまうようになり、自動車も傷だらけになってきたので、娘と相談して受診を勧めましたが、身体は元気だったため、怒らせただけでした。

それから3年後、私が留守をしている間に1人で車を運転して出かけてしまい、一晩帰ってきませんでした。警察や親戚、地域の方々に探していただき、名古屋市の警察署で見つかり、迎えに行きました。精神科に行くように言われ、翌日受診し、アルツハイマー型認知症と診断されました。脳の萎縮の程度で、「平成19年ごろから発症していますね」と医師に言われたので今年で9年になります。主人は幸いにも他人を巻き込んだ事故を起さないでくれ、本当に良かったと思っています。最近、テレビを見ていますと高齢者の交通事故が多くなりました。免許証の更新も3年では長いかもしれません。高齢者の運転は危ないと思います。

主人は最近のこともすぐ忘れてしまい、今は食べることが楽しみになっていて、下の世話が大変です。私も腰が痛くなってきたので、デイサービスを利用して皆さんにお世話になっています。「家族の会」に入会し、「自分だけが大変ではない」と思い、同じ思いの仲間が全国には大勢おられることに勇気づけられました。主人より先に逝けませんから、身体に気をつけて頑張っていこうと思っています。

いろいろありすぎて

●宮城県 Bさん 50歳代 女性

64歳の夫が病気になり、5年を過ごしました。この5年の時間を思い出しても、いろいろあり過ぎて、何とか過ごせたと思うばかりです。今、夫は私が思うようなことはほとんど覚えておりません。どんどん世界の違う人になってしまうんだなあ…と感じております。

「家族の会」は、情報をいただくばかりではなく、同じ病気を抱える家族でなければわからないこと、言えないことをほんとうに受け止めていただけること、たくさんの方の声が今の私の活力になっていると感じております。「成るように成る」の意味を大切に、意味の深さを心において過ごしてまいりたいと思っています。

楽しみは囲碁

●宮崎県 Cさん 80歳代 男性

妻の認知症が進行するうちに、介護する夫の私も咽喉がんとパーキンソン病に罹り、悪戦苦闘する中、「家族の会」を知り、入会することにしました。

要介護1、82歳の妻の唯一の楽しみは囲碁で、インターネットで対局している姿をいつまでも見たいと願っています。



生活をどうしていったらいいのか

●神奈川県 Dさん 50歳代 女性

59歳の夫は、9月にアルツハイマー型認知症と診断されました。会社に住づらくなり退職し、これからの生活をどうしていいのか…。家のローンも半分残っているし、私も現在扶養の範囲内のパートをしています。平成29年6月には定年となり、辞めなければなりません。本人はまだ介護が必要ではありませんが、とにかく生活の収入がなく、どうしたらいいのかわかりません。



ひとりの時間が不安な母

●埼玉県 Gさん 50歳代 男性

アルツハイマー型認知症で要介護4の母を介護しています。私の仕事の関係上、デイサービス、ショートステイ、ホームヘルパーなどのサービスを利用しているが、朝、夜合わせて3時間ぐらい一人の時間があり、母がその間、不安を抱えているのがわかる。なにか不安を解消できる方法がないか等、いろいろ相談をしたいと思っている。

言葉かけが減りました

●東京都 Eさん 60歳代 女性

74歳、アルツハイマー型認知症の夫を介護しています。最初のころは怒りっぽく、怒鳴ってみたい、些細なことでかんしゃくを起したり、すぐに怒り出すので、顔色をみるようになり、言葉かけも減りました。またこだわりが強く、気になると、同じことを何十回も言います。デイサービスに行っていますが、家にいる時は意欲減退があり、寝てばかりいます。

心が温かくなりました

●福島県 Hさん 60歳代 女性

施設内を徘徊していた母も91歳になり、春ごろから入退院を繰り返すようになりました。週の半分は母に面会しても、私を娘ではなく、亡くなった祖母や母の実妹と思い込むことが多くなりました。元気なうちに、知的障がいのある兄に会わせたいと思い、昨年、面会に行った時、兄を見て、母の亡くなった実弟の名を呼んだので、声も出ないほど兄は落胆したようでした。

今年の春、面会に行った時はひと目見て、母は兄の名を呼びました。兄は涙ぐみ、お互い穏やかな表情になりました。私からみれば、昔から顔も背格好もそっくりな兄と叔父。病弱だった優しい兄と母の絆を感じ、私も心が温かくなりました。

受診させるため思案中

●兵庫県 Fさん 60歳代 女性

81歳の実母は記憶障害も進んできており、活動的で活発だったころが嘘のように、常に自分の身体に不安を持ち、動くことがなくなりました。時々、何のために生きているのだろうか、死んでしまいたいとかうつ状態になったり、感情的になったりします。なんとか、専門の病院を受診させようとしているのですが、どう持っていこうかと思案を重ねているところです。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。

「介護の社会化」をめざし、声を上げ 続けよう

負担増・給付削減を強いる流れに抗して

「家族の会」理事、介護保険・社会保障専門委員会委員長 鈴木 森夫

負担増・給付削減を強いる介護保険部会の次期改定に向けた意見書の取りまとめを受けて、これまでの取り組みを振り返り、これからどう取り組むかについて報告します。

要望書を提出し、各方面に積極的に働きかけ

2015年の補足給付・2割負担導入による影響調査に寄せられた悲痛な「生の声」は大きな反響を呼び、今も共感の輪が広がっています。こうした利用者の声を背景に、「家族の会」は、介護保険部会では花俣ふみ代理事が、負担増・給付抑制案に対して、繰り返し反対意見を述べ、一方、社会保障審議会に委員を輩出している団体などに私たちの主張に理解を求める文書を送り、加えていくつかの支部では行政や議会に働きかけを行ってきました。さらに11月5日、長崎での支部代表者会議では「さらなる給付抑制と負担増は介護保険崩壊の道」とするアピールを採択し、粘り強く訴え続けました。

つながれば希望が見えてくる

そのような中、地方自治体からも「サービスの抑制は重度化を早める」との反対の意見書が上がるなど、各方面から批判の声が相次いであがりました。厚生労働省も、相次ぐ反対意見を見無視できず、要介護1、2の人に対する訪問介護の生活援助外しや福祉用具・住宅改修の原則自己負担化、65～74歳の自己負担2割などの案を撤回せざるをえませんでした。これは、「家族の会」が粘り強く要望し続けただけでなく、多くの人が声を上げたことによる大きな成果です。まさに「つながれば希望が見えてくる」のです。

介護保険部会の「見直しに関する意見」から見える今後

しかし、残念ながら昨年12月9日の介護保険部会では、次のような意見が了承されてしまいました。

- 現役並み所得者（単身者・年金収入のみで383万円以上）3割負担の導入
- 高額介護サービス費による自己負担上限の一般区分引き上げ（37,200円→44,400円）
- 訪問介護の生活援助サービスの人員基準見直しと介護報酬引き下げ（2018年度検討）
- 2号被保険者の保険料引き上げにつながる「総報酬割」の導入

時期を同じくして、審議会の医療部会や国会では、高齢者を狙い撃ちにしたい仕打ちが続いています。

あらためて「介護の社会化」実現に向けて

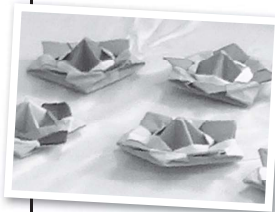
この1年、私たちの運動は一定の成果をあげましたが、社会保障制度をめぐる負担増・給付削減の流れは、ますます強くなっています。介護保険制度改定についてはこれから法案の審議が始まり、介護給付費分科会での報酬の検討も本格化します。まだまだやるべきことは、いろいろあります。希望を持って、本部・支部が力を合わせて、「介護の社会化」、「認知症になっても安心して暮らせる社会」の実現を目指しましょう。

折り紙のコマ で「介護の日」 に参加

栃木県支部

11月12日、栃木県庁で「介護の日フェスティバル」が開催され、「家族の会」も参加し「相談コーナー」を開いた。

「家族の会」は、世界アルツハイマーデーリーフレットや100歳の方が折られた「折り紙のコマ」を皆さんに配った。折り紙のコマは珍しいのか、学生さんや外国の方々が手に取ったり、一緒に写真を撮っておられた。また現在、家族の介護をしていると



いう方で「家族の会」の話を聞かれ、「ぜひつどいに参加したいです。会員になります」と話す方もあった。

当日は天気にも恵まれ、ジャズや健康体操、ご当地グルメで賑わい盛況だった。

「AEDを使 って救急救命 講習会」開催

静岡県支部

富士宮市の認知症家族会「さくら会」との交流会も20回を迎えた。8月のつどいが

暑かったので「熱中症」が話題になり、これがきっかけでAED操

作を含め、救命救急についての講習会をすることになった。富士宮市消防署の救命救急士3名が講師となり、モデル人形を使用して心臓マッサージ、およびAEDの使用について一人ひとりが実習をした。



大半の人が初めての体験であり、質疑応答を交えて熱心に実習した。その後、8つのグループに分かれ、昼食をいただきながら、いつもの交流会が行われた。

いきいき 「家族の会」まちでもむらでも

編集委員／小宮俊昭

つどいは明日 につながる話 し合いの場

福島県支部

郡山地区会のつどいには、毎回介護者を中心に十数人の参加があり、近況や介護、世の中の話題であつという間に時間が過ぎていく。

今回は、成年後見利用促進法が成立し制度が普及しない現状はどう解消されるのか、施設入所が決まり一区切りできたので自分のことに力を入れたい、認知症の母親を理解できずつらくあたる父親との間でおかしくなりそうなど、様々な悩みや思いが語られた。

世話人の芦野正憲さんは、「明日につながるよう、みんなが話をし合う、発散できる場としてつどいがあるのかなと思う」と述べている。

宮城県に行ってきた メイトスキルア ップ研修出前講座に

和歌山県支部

宮城県支部から、県支部副代表の梅本靖子さんに「見守り支援員」の体験談を含め、認知症に対する取り組みや実践などについての講義依頼があった。

支部の世話人、県の職員から温かい歓迎を受け、和歌山市の委託事業である「認知症見守り支援員（メイト）」の現状や事例、和歌山市キャラバンメイト連絡協議会の取り組みなどを伝えた。

また、梅本さんはグループワーク&ディスカッションも熱心に取り組みられ、「今回の研修で自分のほうがたくさん学びがあり、非常に有意義な2日間となった。この体験を和歌山でも活かしていきたい」と思ったそうだ。



支部だよりにみる

介護
体験

152

北から

南から

今回は 京都府

ついに妻の看取りが現実と
なりました

京都府支部 馬場 暉 72歳

京都府支部報
(2016年9月号)

妻は56歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断告知、その後、デイや小規模多機能型居宅介護を利用して、63歳で特養施設に入居しました。

在宅介護しようにも私が前立腺がんで入院を控え、「いずれは」と申し込んでいた特養に何とか入居させてほしい旨、申し出。数ヵ月後には面接までこぎつけましたが、いざ入居できる段階で心は素直になれず、「考えさせてほしい」と時間をもらいました。「家族の会」世話人からも「介護者が倒れたら奥さんがかわいそう」と諭され、第一希望であった特養にお世話になることになりました。

特養ではユニットの介護スタッフ全員に、生まれた時から忘れることのない名前で「洋子さん、洋子さん」と親しく寄り添ってもらえ、誕生会や外出、数時間の帰宅もできました。妻だけでなく私までにも目配り、心配りをいただき、本当に居心地のよい生活の場でした。週3〜4回、帰宅前に妻の顔を見に行くのを私の仕事の一つにしていました。

入居3年半の昨年夏、てんかん発作を発症、そして逆流性肺炎と思われることから入院。認知症の進行による症状が見え始めてきました。普通食から流動食、ゼリー食と段々食事形態もレベルダウン、何となしに嫌な予感がただよいはじめてきました。

悩み続け、やっと決断できました

医師から「延命処置はどう考えていますか、胃瘻するのなら今ならできます」と苦しい判断を求められ、息子や近親者に状況報告。「家族の会」の経験者の声も聴き、毎日日替わりで「胃瘻しない」「いや若いから胃瘻して

やりたい」の思いが駆け巡り、悩み続けました。

施設では「胃瘻すると決断された人にはそれはそれに対応しますが、長年専門的に看てきた経験から、ご本人を考えるとお薦めしない」と言われ、当初は受け入れできずに悩み続けました。胃瘻すると痰が出やすくなり吸引、肺炎で苦しめることが予測されるし、段々胃瘻しない方に内心決めはじめていました。内心に間違いのないか慎重に、滋賀県高島市で開催された「家族の会」副代表・杉山孝博医師の「ターミナルケアの講座」に行き、個別相談で「胃瘻はお勧めしない」と肩押ししてもらえたこの時点で決断できました。

妻を中心とした生活に悔いなし

その後、食事の量が減り体重も27.6^{キロ}まで記録していましたが、その後は不明です。体重とか摂取カロリーとかの段階ではなくなりました。一日二食になり、それも摂れなくなり、いよいよ看取り体制へと進みました。この食事を与えない看取り体制ほど、夫としてつらいものはありませんでした。あと何日、生命の維持ができるのかの事になってしまい、毎日施設に泊まり込み、虫の息になっていくことを実感として受け止め、ついに8月12日、妻の死が現実のこととなりました（67歳）。

42年の結婚生活、ここ十数年、妻中心の生活をしてきましたが、悔いのない充実したものでした。「ドラえもん」の色紙（注）も棺に入れてやりました。

（注）洋子さんは若い頃、テレビアニメ「ドラえもん」の絵に色づけをされており、そのこともあって認知症になったドラえもんの声優・大山のぶ代さんの夫・砂川啓介さんの講演会の際に、面会していただいた大山さんのサイン色紙。